

授業計画書

令和5年度

授業計画書

令和5年度

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	運動学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 体幹・顔面の筋をそれぞれの運動と共に学び、臨床医学に結び付けて行く。 2. 姿勢の力学を学ぶことにより日常生活動作での転倒予防の基礎知識を身につける。3. 歩行の基礎知識及び歩行分析による筋活動等の知識を修得する。 4. 姿勢制御理論、運動制御理論および運動学習理論が理解できる。 5. 生体力学を学び関節及び筋の作用との関連が理解できる。			評価方法			
授業概要	基礎的知識としての解剖学・生理学をベースに、人間の運動を理解統合する為に、運動処方・姿勢・歩行と歩行及び動作分析を実習を通して理解し、臨床に結びつく実践の知識として学ぶ。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズ運動学(中山書店)	使用器材	パソコン等				
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週	オリエンテーション 運動学Ⅰまとめ ◎運動学Ⅰの範囲を確認すること						
第2週	頸椎	◎ポイント: 頸椎の構造と運動					
第3週	胸椎・胸郭・腰椎の運動	◎ポイント: 胸椎・胸郭・腰椎の構造と運動					
第4週	呼吸運動	◎ポイント: 呼吸に関する運動学的観察					
第5週	顔面及び頭部の運動	◎ポイント: 顔面の筋・頭部・下顎の構造と運動					
第6週	姿勢	◎ポイント: 重心 ◎ポイント: 姿勢の異常					
第7週	歩行と歩行 その1	◎ポイント: 運動学的分析					
第8週	歩行と歩行 その2	◎ポイント: 運動学的分析実習					
第9週	階段と踏み台の昇降	◎ポイント: 運動学的分析実習					
第10週	運動と動作分析	◎ポイント: モーションキャプチャー					
第11週	体力と運動処方 その2	◎ポイント: 運動処方実習					
第12週	生体力学の基礎 その1	◎ポイント: 身体とてこ					
第13週	生体力学の基礎 その2	◎ポイント: モーメント 運動法則					
第14週	生体力学の基礎 その3	◎ポイント: 仕事とエネルギー					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、講義内容を同日中の内に振り返ること。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	精神医学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 精神科の疾患について理解することができる。 2 精神科作業療法で関わることが多い統合失調症について知識を理解できる。 3 作業療法における精神疾患との関わり方を理解することができる。 4 精神病患者の生活能力障害について理解することができる。	評価方法					
授業概要	精神医学とは何か。精神障害者を理解するために、精神疾患と精神症状を学習する。	期末試験 100%	(100点換算で60点以上で合格)				
教科書等	現代臨床精神医学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	精神医学概論と基礎知識(精神科の病)について。オリエンテーション						
第2週	精神医療とは何か 精神医学の概念について学ぶ(歴史的背景を踏まえて)						
第3週	症状の成り立ち(外因・内因・心因について学習する)。また心身相関について学習する。						
第4週	睡眠と覚醒のリズムについて学習する人体における睡眠の必要性						
第5週	精神療法について(筋肉応答法含む)精神科臨床場面において果たす役割について学ぶ。						
第6週	精神科における薬物療法の作用と副作用について学ぶ。(発展した歴史的背景含む)						
第7週	統合失調症について概念、歴史、疫学、成因について学ぶ。						
第8週	統合失調症の経過について症状の推移について学ぶ。(予後も含む)						
第9週	統合失調症の治療について。基本方針、治療の概略について学ぶ。						
第10週	統合失調症におけるリハビリテーションの概要について学ぶ。						
第11週	統合失調症まとめ。アウトプットを繰り返し、知識の定着を図る。						
第12週	外因性精神病について(認知症の概要、中核症状、周辺症状とは)学ぶ。						
第13週	自らの精神保健(治療者自身のメンタルヘルスの重要性)						
第14週	期末試験対策を実施する。						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義に参加する前は、事前に配布したスライドに目を通すこと。また、復習は適宜行い、知識の習得を目指すこと						

授業計画書

令和5年度

令和5年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	一般臨床医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 医療職として必要な医学一般に関する知識を修得する 2 医療職として必要な基礎医学用語を理解する 3 医療職として必要な基本的技術を習得する 4 身体各部位に関する基礎医学的知識を修得する			評価方法			
授業概要	厚生労働省の示しているPT・OTの卒前教育として指示されている「一般臨床医学」の基礎的知識を理解する。具体的には、心肺蘇生をはじめとする救急医療、外科及び脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科における代表的疾患の病態と標準的な治療法を学習する。また、老年医学についても学習する。			期末試験 100%			(100点換算で60点以上で合格)
教科書等	PT・OTのため的一般臨床医学	使用器材	配布資料				
週		授業項目・内容			実施結果		
第1週	救命救急医療(教科書第1章 P1～P2)						
第2週	救命救急医療2(教科書第1章 P2～P11)						
第3週	外科総論1(教科書第2章 P13～P17)						
第4週	外科総論2(教科書第2章 P17～P21)						
第5週	脳神経外科概論1(教科書第3章 P23～P29)						
第6週	脳神経外科概論2(教科書第3章 P29～P30)						
第7週	脳神経外科概論3(教科書第3章 P30～P33)						
第8週	皮膚疾患1(教科書第4章 P35～P46)						
第9週	皮膚疾患2(教科書第4章 P46～P56)						
第10週	泌尿器・生殖器疾患1(教科書第5章 P57～P63)						
第11週	泌尿器・生殖器疾患2(教科書第5章 P63～P73)						
第12週	婦人科・産科・眼疾患(教科書第6、7章 P75～P104)						
第13週	耳鼻咽喉科疾患(教科書第8章 P105～P117)						
第14週	老年医学(教科書第9章 P119～P121)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義の最後に確認問題を実施する。確認問題は必ず復習を行うこと。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	リハビリテーション栄養学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 作業療法士に必要な生物学、化学、栄養学の基礎知識を修得する。 2 実践的なリハビリテーション栄養学の基礎知識を修得する。 3 作業療法士に必要な栄養アセスメントの知識を修得する。 4 作業療法士に必要な摂食嚥下に関する知識を修得する。			評価方法			
授業概要	生物学と化学をベースとして、栄養学の基礎知識を理解する。そして、実践的なリハビリテーション栄養学の知識を修得する。			期末試験 100%			(100点換算で60点以上で合格)
教科書等	リハベーシック 生化学・栄養学	使用器材	配布資料				
週		授業項目・内容			実施結果		
第1週	なぜ生化学・栄養学を学ぶのか (教科書 第1章 P8~P14)						
第2週	生化学・栄養学に必要な基礎化学 (教科書 第2章 P16~P22)						
第3週	蛋白質とアミノ酸 (教科書 第3章 P24~P30)						
第4週	酵素・ホルモン (教科書 第4章 P32~P38)						
第5週	糖質・脂質の代謝 (教科書 第5章 P40~P46)						
第6週	ビタミン (教科書 第6章 P48~P54)						
第7週	消化と吸收 (教科書 第7章 P56~P62)						
第8週	エネルギー代謝 (教科書 第8章 P64~P70)						
第9週	運動と栄養 (教科書 第9章 P72~P78)						
第10週	リハビリテーションと栄養 (教科書 第10章 P80~P86)						
第11週	栄養評価 (教科書 第11章 P88~P94)						
第12週	主な病態の栄養管理 (教科書 第12章 P96~P102)						
第13週	静脈・経腸栄養法 (教科書 第13章 P104~P110)						
第14週	栄養と摂食嚥下 (教科書 第14章 P112~P118)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義の最後に確認問題を実施する。適宜復習を行うこと。						

授業計画書

令和5年度

授業計画書

令和5年度

令和5年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	公衆衛生	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	小渕 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 多様な公衆衛生活動があり「健康」が守られてることを理解する 2. 環境問題や各分野に特有な課題に対応する具体的活動について知識を深める 3. 身近にある健康問題に関心を持ち、積極的に情報収集し行動することができる	評価方法					
授業概要	人の健康を守る保健医療活動である公衆衛生の基本的な知識を学習する。今後、社会の変化に伴い変化する公衆衛生活動を作業療法士として活用できる視点と能力を培う。	期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)					
教科書等	わかりやすい公衆衛生第3版 ヌーベルヒカワ	使用器材	配布資料その他演習に必要な用品				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	1. 公衆衛生とは:「みんなの健康を、みんなで守る、保健医療の組織的な営み」と定義されている。健康には多くの要因が関係しており公衆衛生の広がりについて学ぶ。						
第2週	2. 健康と環境、疫学的方法:人の健康に影響する要因と、集団検診と集団の健康事象について扱う疫学の重要性について学ぶ						
第3週	3. 健康の指標:集団の健康水準を測定する尺度の総称であり、良く使用されているものについて指標の意味するもの、見方などについて学ぶ。						
第4週	4. 感染症とその予防:感染症の成立要因と伝播様式を理解し、その発生予防や蔓延防止の方策について学ぶ。代表的な感染症について流行状況や感染予防対策を学ぶ						
第5週	5. 食品衛生と栄養:食生活の安全を確保するため、食中毒予防の新しい技術や知識ならびに我が国の食品衛生の制度を理解する						
第6週	6. 生活環境の保全:現代の生活が地球環境に何をもたらしたかを理解する。地球温暖化に代表される環境の変化が人々の健康に与える影響について学ぶ						
第7週	7. 医療・介護の保障制度:日本で病院を受診したり、介護サービスを安心して受けができる仕組みについて学ぶ						
第8週	8. 地域保健活動(ヘルスサービスの構造):地域の住民が適切なヘルスサービスを受けることができる仕組みやシステムについて学ぶ						
第9週	9. 母子保健:少子化が急速に進行する中で、我が国の現状と今後の課題について、母親への支援、子どもの健全な発達を保障できるか、今後の母子保健サービスの方向について学ぶ						
第10週	10. 学校保健:学校保健では児童・学生の成長を支援していく責任がある。学校保健制度の法的基盤をもとに、学校保健・安全の制度の構成と内容について学ぶ						
第11週	11. 生活習慣病:がん、心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病が日本人の最大の死因となっており、国をあげて取り組んでいる健康づくりについて学ぶ						
第12週	12. 難病対策:難病の定義と「共生社会の実現」という難病対策の基本理念を理解する 13. 健康教育とヘルスプロモーション(自らの健康をコントロールし改善するプロセス)の概念や取組みについて学ぶ						
第13週	14. 精神保健福祉:精神障害者の人権尊重が重視され「入院医療から地域生活中心へ」改革が進む施策について学ぶ。自殺や依存症など新たな課題についても学ぶ						
第14週	15. 産業保健:産業保健の目的と働く人を保護する枠組みを理解し、労働衛生管理の仕組みである3管理と労働衛生教育の概略を学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	「健康は個人の財産であるとともに、社会資源である」ということがヘルスプロモーション(健康増進活動)です。誰もが健康に暮らしたいと考えています。自身の健康について考えることで公衆衛生活動の重要性を理解できるでしょう。具体的な事例や実際の事件・事故を通じて理解が深まるように学習していきます						

授業計画書

令和5年度

令和5年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	基礎作業療法学	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院で陶芸、織物、手工芸等を指導	担当者	林あゆみ、三好先生、山下先生、大川先生	授業方法	演習	単位数	4
到達目標	作業の治療適応を理解し、作業種目を決定して取り組むことができる。					評価方法	
授業概要	① 障害体験を交え、作業製作活動を実施する。 ② 活動分析を行う。(レポート作成、発表等) 「三好先生・山下先生、大川先生」: 授業項目に示す週の教育補助業務 ★コロナ感染防止のため2教室に分けて実施する。(実習室2と実習室3)					期末試験 50% レポート 30% 作品 20% (100点換算で60点以上で合格)	
教科書等	基礎作業療法 ゴールドマスター テキスト作業学	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第9週	作業内容、作業工程の説明、計画(塗り絵、ペーパークラフト①)・作業活動						
第9週	<u>障がい者作品展の見学</u> 山下先生						
第10週	作業内容、作業工程の説明、計画(籐細工① 陶芸①)・作業活動						
第10週	作業活動(籐細工② 陶芸②) 三好先生						
第11週	作業活動(籐細工③ 陶芸③) 山下先生						
第11週	作業活動(籐細工④ 陶芸④) 三好先生						
第12週	作業内容、作業工程の説明、計画(健康ゲーム)・作業活動 2グループ合同 大川先生						
第12週	作業活動(健康ゲーム) 2グループ合同 大川先生						
第13週	作業内容、作業工程の説明、計画(籐細工① 陶芸①)・作業活動						
第13週	作業活動(籐細工② 陶芸②) 山下先生						
第14週	作業活動(籐細工③ 陶芸③) 三好先生						
第14週	作業活動(籐細工④ 陶芸④) 山下先生						
第15週	作業内容、作業工程、計画 レポート制作						
第15週	レポート発表 まとめ						
授業外学習指示等	障害者作品展の見学						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	多職種連携の理解	授業時期	後期	授業時数	30	
実務経験		担当者	林 あゆみ	授業方法	講義	単位数	1	
到達目標	1. 職種連携の定義を述べることができる。 2. 多職種連携に参加する職種を挙げ、その役割を述べることができる。 3. 事例検討において 多職種連携の視点で、専門職の側面から分析し考察できる。 4. 連携して働く多職種との協力に必要な知識、技術、態度を身につける。	評価方法						
授業概要	多職種連携の観点から、専門職業人として普遍的な知識および考え方・態度について理解し修得するとともに、関係職種との連携および協働により地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献できるような態度を身につける。	定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)						
教科書等	ケアマネジメントにおける多職種連携実践事例集	使用器材						
週	授業項目・内容						実施結果	
第1週	第1部 多職種連携のための基礎知識 1. 介護支援専門員と地域包括ケアシステム							
第2週	第1部 多職種連携のための基礎知識 2. 介護支援専門員に求められるチームマネジメント							
第3週	第2部 多職種連携のための関連職種・サービスの知識 1 介護職との連携 2 リハビリテーション専門職との連携							
第4週	3 医療職との連携 4 看護職との連携							
第5週	5 薬剤とアセスメントのポイント 6 インフォーマルサービスなどの活用							
第6週	7 栄養アセスメントのポイント 8 口腔ケアアセスメントのポイント							
第7週	第3部 多職種連携によるケアマネジメント実践事例 1 脳血管疾患に関する事例							
第8週	2 認知症に関する事例 3 筋骨格系疾患と廃用症候群に関する事例							
第9週	4 内臓の機能不全に関する事例 5 看取りに関する事例							
第10週	6 リハビリテーションおよび福祉用具に関する事例							
第11週	7 入退院時等における医療との連携に関する事例							
第12週	8 家族への支援の視点が必要な事例							
第13週	9 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例							
第14週	10 状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例							
第15週	まとめ							
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること							

授業計画書

令和5年度